

「チュニジア - NAMA 策定のフロントランナー」 傍聴報告

2013年11月14日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2013年11月11日～11月23日にポーランド・ワルシャワで開催された国連気候変動枠組条約第19回締約国会議 (COP19) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：チュニジア - NAMA 策定のフロントランナー (Tunisia: A Frontrunner in NAMA Development)
- 日時：2013年11月14日 (木) 20:15 - 21:45
- 主催：Perspectives Climate Change、2C2D
- 会場：Room Cracow (National Stadium, Warsaw)
- プレゼンター：Axel Michaelowa (Perspectives Climate Change)、Imed Fadhel (チュニジア UNFCC フォーカルポイント)、Thouraya Mellah (2C2D)、Anselm Duchrow (GIZ チュニジア)、Matthias Honegger (Perspectives Climate Change)

■ 概要

本サイドイベントでは、チュニジア政府及び NGO により、チュニジアにおける気候変動戦略の概要と NAMAs 策定の取組に関して発表がなされた。また、チュニジアにおける NAMAs 策定・実施を支援している GIZ、Perspectives Climate Change より、支援の具体的内容とドナーから見たチュニジアの NAMAs の優位性に関して報告がなされ、意見交換が行われた。

1. Imed Fadhel (チュニジア UNFCC フォーカルポイント)：「チュニジアの気候変動戦略 (Tunisia's Strategy on Climate Change - Focus on mitigation initiatives and NAMAs development in the energy sector)」

- チュニジアの主要産業は観光業、工業、農業である。チュニジア政府は緩和策と適応策の両方で戦略を策定し、気候変動対策を実施している。緩和策に関しては、2030年までに2009年比で炭素強度 (Carbon Intensity) を60%削減し、2050年までにGHG排出量を安定化するという目標を掲げている。
- この目標を達成するため、GIZの支援を受けて、エネルギー分野、工業分野 (セメント産業)、建物分野、下水分野、農業・LULUCF分野でNAMAsを策定している。チュニジアのNAMAsにおいて最も重要な取組は、チュニジア太陽光計画 (Tunisian Solar Plan) である。この計画により、エネルギー効率を2016年までに24%、2030年までに40%改善し、再生可能エネルギー普及率を2016年までに11%、2030年までに40%に高める予定である。今後、NAMAsの提案書の作成、資金計画の策定、MRVを含む実施計

画の策定等を行う。

2. Thouraya Mellah (2C2D) : 「GHG 排出削減プログラムにおけるチュニジア NGO の役割 (What is the role of Tunisian NGOs in GHG mitigation programs?)」

- 2C2D はチュニジアの NGO である。気候変動と持続可能な開発に関する教育啓発活動を行っており、チュニジア気候変動戦略や下水分野の NAMAs の策定に関与している。チュニジアには現在 132 の NGO があり、2011 年 1 月のジャスミン革命以降、増加傾向にある。NGO は NAMAs に関して、持続可能な開発の要素を反映させ、モニタリング・評価を行う役割を担っている。

3. Anselm Duchrow (GIZ チュニジア) : 「チュニジアにおける NAMA 戦略策定支援 (Support for an integrated NAMA strategy in Tunisia)」

- チュニジアの気候変動戦略 (National Climate Change Strategy) は、関連する市民団体、専門家、政治家による参加型のプロセスで策定された。2 年間をかけて 3 つのシナリオを検討し、経済成長と雇用改善を達成しながら、2030 年に炭素強度を 60%削減し、2050 年に GHG 排出量を安定化するという野心的な目標を設定した。
- GIZ は、エネルギー分野、工業分野 (セメント産業)、建物分野、下水分野、農業・LULUCF 分野の NAMAs 策定を支援している。また、国レベル・都市レベルの GHG インベントリ作成を支援している。これらの活動では、OJT やスタディツアー、EU や中東各国との知見共有等を通じたキャパシティビルディングが重視されている。
- NAMAs はチュニジアの持続可能な開発に関する広範な目標に対応している必要がある。このために、参加型のアプローチや強固な合意形成の仕組み、意思決定者への働きかけが重要である。資金の動員に関しては、国際機関、公共セクター、民間セクターのパートナーシップが重要である。チュニジアでは、セメント分野の省エネに関する NAMAs の検討が先行しており、提案書が NAMA ファシリティに提出されている。

4. Matthias Honegger (Perspectives Climate Change) : 「国際的な NAMA 資金に対するチュニジアの優位性 (Tunisian competitiveness in the race for international NAMA financing)」

- チュニジアは 5 分野で NAMAs を策定しており、中東地域のフロントランナーである。ドナーは NAMAs への資金支援に際して、レバレッジ、実施に関する政治の意思、強固な MRV システムと信頼できるデータの有無、目標の野心度を見ている。NAMA ファシリティは 2013 年 9 月に一次公募が終わり、恐らく 2014 年前半に二次公募が行われる。
- チュニジア政府は NAMAs 実施に関して、高いオーナーシップを持っている。チュニジアの NAMAs は多様であり、セクター間のシナジーがある。例えば、セメント分野における下水汚泥の活用は、工業分野と下水分野、両方に関連する NAMAs である。チュニジアにはセクター間の GHG 排出削減量のダブルカウントを避けつつ、シナジーを最大

化する能力がある。

■ 質疑応答

Q. 氏名不明（ベトナム商工省）：

(1) ベトナムも **NAMAs** を策定しているが、**NAMA** ファシリティに提案するための技術的な能力が不足している。チュニジアでは、**NAMA** ファシリティへの提案に際してドナーの支援を受けたのか。

(2) チュニジア太陽光計画の目標は非常に野心的である。どのように実現するのか。

(3) **NAMA** ファシリティの一次公募には、いくつの提案書が提出され、どの程度が採択されたのか。

A. Imed Fadhel（チュニジア UNFCC フォーカルポイント）：

(1) チュニジアは **NAMAs** の策定に関してドイツ政府、**GIZ** の支援を受けている。また、再生可能エネルギーの普及に関して **UNDP** の支援を受けている。

(2) 再生可能エネルギーの目標を達成するためには、法制度の障壁と資金の障壁がある。チュニジア政府は再生可能エネルギーへの民間セクター投資を促進する法律を整備している。現在、公的機関のみが再生可能エネルギーの発電所を運営しているが、法制度改正により、民間企業の参入が可能になる。資金に関しては、計画を推進するための国家の資金計画を策定している。

A. Anselm Duchrow（**GIZ** チュニジア）：

(1) **NAMA** ファシリティへの提案書はチュニジア政府が提出した。チュニジアのセメント分野の **NAMAs** は、関係者により十分な議論がなされていた。提案書作成に際し、コンサルタントの支援も受けているが、提案書の作成は大きな問題ではなかったと考える。

(3) **NAMAs** ファシリティに対するプロジェクトの提案・採択状況はまだ公式には発表されていない。なお、プロジェクトがきちんと設計されていれば、**NAMA** ファシリティ以外の資金獲得の可能性も高いと考えている。例えば、チュニジアのセメント分野の **NAMAs** に関しては、投資に関心を持っているドイツ企業があり、将来的に **PPP** 導入の可能性はある。

Q. 氏名不明（モロッコ政府）：

NAMAs 策定はトップダウンのアプローチを採用しているのか。またはボトムアップのアプローチを採用しているのか。

A. Imed Fadhel（チュニジア UNFCC フォーカルポイント）：

NAMAs 策定に関しては、トップダウンのアプローチとボトムアップのアプローチ、両方を採用している。これまで専門家や市民団体と議論してきた。今後、ハイレベルの政策決定者に働きかけ、実施を推進することが重要になる。

（報告者：OECC 中尾有伸）



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP19report.html